

英語学習者に対する完了形の新しい学習法のための一考察 – 3用法の理解難易度の検証 –

An Analysis of an Innovative Way of Teaching the Perfect Tense for College-level Japanese Learners of English –An Investigation of Understanding Three Uses of the Present Perfect Tense–

渡邊 勝仁
Katsuhito Watanabe

[Abstract]

The purpose of this study is to investigate the understanding of three uses of the present perfect tense. A total of 24 sentences of the present perfect tense were given to 1st year college students who were required to translate the meaning to Japanese. The results showed that one use was relatively easier to understand compared to other two uses. Furthermore, there were significant findings from analyzing the data from 24 translated sentences. Additionally, there were other important factors that students need to learn prior to learning present perfect tense such as vocabulary meaning, conjugation of verbs, and the relationship between verbs and adverbial phrases.

[キーワード]

現在完了形、3用法の理解度、正答率、不規則動詞、副詞句

1. 問題と目的

近年、日本語を母語とする大学生英語学習者の英語力の低下が、強く感じられる。多くの大学生の最終目的は、卒業後の就職にある。就職活動での TOEIC テストのスコアなど英語力の向上は、重要な要素であると考えられる。また、多くの大学では、さまざまな英語力向上に向けての授業開発に従事し、学生への努力を促している。しかしながら、必修科目である英語の授業においても、中学で習ったはずの初歩的な英語文法の理解が困難な学生が見受けられる。

日本人学習者が英語を学ぶ上で困難に感じられるものは多々あるが、その中の1つとして時制がある。では、どうして時制を学ぶのが難しいとされるのか。それは日本語の時制の扱い方と英語のそれとの違いが関係していると考えられる。さらに時制の学習が困難な理由として松沼(2007)は、従来の教授方法の問題点として、現在完了が現在時制である(現在完了が現在の事柄を表す)という本質的理解を十分に促進できていないことを挙げている。厳密には、日本語における完了形は時制ではなく相であるが、英語のように完全な言語形式(have+過去分詞)が存在しないため、

日本語には完了形が存在しないとされ、多くの学習者が英語の時制を学習する際に戸惑いを覚える(山口, 1996)。また杉山(1998)は、現在完了形には①完了、②結果、③経験、④継続という4つの用法があることを示している。しかしながら、必ずしもこの4つの分類に限定されない。英語学習者が見慣れている一般的な文法書などでは、現在完了形が3つの用法(①継続、②経験、③結果・完了)に分類されているケースも多々ある。また、教室では4用法を分類し、それぞれ典型的な例文をもとに指導することとなっており、当てはまる日本語訳を機械的に暗記しているに留まっております。現在完了形の本質的な理解は出来てはいない(小寺, 1977)。さらに、伊関(2012)によると、英語母語話者、特にアメリカ人においては、過去時制が現在完了と変らない意味で用いられていることがあると記している。こうなると、日本人英語学習者が現在完了形を中学校で学習するとしても、大学生のレベルにおいてこれを完璧に理解している学生はごく一部だと考えられる。現在完了形の4用法の分類に関しては、必ずしも4つに分類できるとは限らない。伊関(2012)は、「継続」とその他3つの「完了」「結果」「経験」は、分離して考えなければならないとしている。現在完了は過去時制と重なり合う部分が多い。つまり他の3つの用法は過去時制と言い換え可能であり、継続用法だけは別に考えなければならないとしているため、継続用法以外の難易度が高いと考えられる。結果的に、完了形の用法を学習する際、各用法に修得する難易度の差があるのではないかと考えられる。本研究の目的は、英語学習者に対する完了形の理解促進を目的とした、新しい指導方法の開発に向けた、3用法(①継続、②経験、③結果・完了)の理解度の検証である。また本研究によって、学生が現在完了形を理解するための誤答の傾向も分析し新しい発見を試みる。

2. 方法とデータ収集

2.1 被験者

東京近郊の私立大学1年生3クラス(Aクラス20名、Bクラス27名、Cクラス27名)、合計男女74名が対象である。この3クラスは、別々の3つの学部の学生であり、英語を得意とする英文科の学生などは含まれていない。被験者の英語能力に関しては、全学生同レベルの範囲である。学生は、大学入学以前に英語能力判定を行うための、レベル分けテストを受講している。このテストは、各自オンラインで行う英語能力テストであり、その点数が集計され、学生は点数の低いほうからレベル1、2、3のクラスに配属される。本研究の74名はすべてレベル1の学生である。

2.2 調査材料

調査材料は、A4普通紙片面に問題合計24問の英文を翻訳する方法である(参考資料参照)。問題は、①継続②経験③結果・完了の3用法を8問ずつランダムに作成した。作成方法としては、中学や高校で生徒によってごく一般的に使用されている参考書、および大学などで使用される教科書の例文を参考にした。これにより、学生が問題を解く際、過去に見たことのない単語や文系によって混乱することを極力避けることが可能であったといえる。

2.3 実施方法

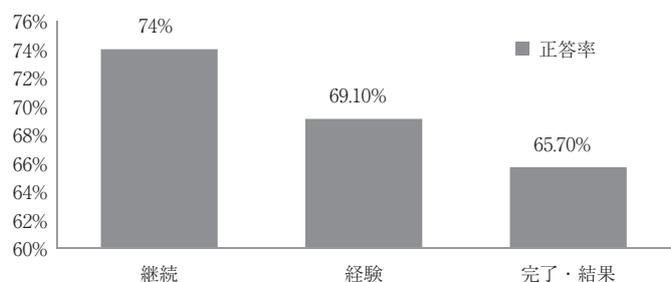
24問の問題解答時間は30分とした。1問平均1分以上の解答時間があるので十分であると推測した。ほかの学生と話をしないで、自分の力で問題を解くことを伝えた。また、辞書やスマートフォンなどの使用も禁止した。また、公平でより正確なデータを収集するため、授業の評価とは関係ないことを伝えた。

2.4 データ収集

問題の解答が正しかったもののみを集計した。ここでの「解答が正しかった」という定義について、述べておく必要がある。今回の趣旨は、3用法ごとに現在完了が理解できているかどうかという点について検証している。あくまでも、英文が正しく翻訳されているかどうかについてはではない。したがって、単語の意味の違いなど、現在完了の理解に直接関係なく間違っている解答は、正解とした。例として、参考資料の4. I haven't seen her since Tuesday. の問いに、「私は、木曜日から彼女を見ていない」という解答をした学生は、この問題に関しては、本質的に現在完了を理解しているといえる。限られた時間内に終わらせるストレスの下、Tuesdayという単語を、「木曜日」と誤答してしまっただけであるといえる。このような誤答は、正解とした。その結果、データ上では、正解率が多少高めになっていることをここで報告しておく。

3. 結果

上でも述べたように、問題の解答に対する正解・不正解は、現在完了の本質が理解できているものは正解とした。3つの用法別に正答率を算出した。算出方法は、単純に正解答の合計を、総人数に各用法の数である8問を乗じた数字で割った。各正答率は以下のとおりである。3つの用法で正答



率が最も高かったのは、継続用法であった。伊関（2012）の継続用法以外の難度が高いと考えられるとあることからこの結果妥当性があると考えられる。経験用法と比べてもその差は、おおよそ5%で、完了・結果の用法に至っては、その差は8%以上であった。3つの用法のみで考慮すると上記の3つ正答率であるが、本研究で使用した問題は8問ずつであったので、各問題間では、正答率に大きな差がある。この大きな差の原因と傾向を次の4. 考察で詳しく分析することにする。また、特徴のある解答例なども挙げて、全体的に学生の解答を検証する。

4. 考察

4.1 継続

継続用法は既に述べたとおり、3つの用法において最も正解率が高かった。これは、伊関（2012）の研究でもあるように、継続用法の難易度が低いとみられる傾向からである。ここで、最も間違いが多かった問題1つと、最も間違いが少なかった問題の1つの詳細そして、その特徴について検証する。

正答数が最も少なかった問題は、1. Bill has been in Hawaii since last year. であった（参考資料参照）。合計74人の回答者数のうち、43人が正解している。これは、58.1%の正答率であった。継続用法の難易度の低さから、3用法中最も高い数字である。ここで、どのような間違いが多かった、またどのような傾向があったのかを検証する。もっとも間違いが多かった例は、「ビルは去年ハワイに居た」が挙げられる。正しい答えは、「ビルは去年からハワイに居る」である。不正解であった学生の多くは、「since last year」である副詞句、特に「since」の意味を忘れてしまっているため、去年からなのか、去年なのかが理解できていないと考えられる。また、一般動詞ではない、状態動詞である「be」から派生している「been」で混乱したと考えられる。

正答数が最も多かった問題は、10. We have lived in this house since 1987. である。合計68人が正解した、正答率91.9%であった。この問題での動詞「lived」は上記の「be」と同じ状態動詞であるが、規則動詞の過去分詞の形であり、多くの参考書・文法書の例文に使われる動詞であるため、理解度が高かったと考えられる。注目すべきは、上記の間1. 同様にこの間には、「since」が含まれる動詞句「since 1987」が含まれる。しかし、「lived」の理解度が高かったと考えられるため、多くの学生が正しい答えを導き出すことが可能であったといえる。

継続用法での分析結果として、副詞句に含まれる「since」などと動詞の関連性が注目される。副詞句の意味が理解できていても、動詞の変化、意味が理解できていないと、その問題に対する現在完了形の本質的な意味の理解が困難な状態に陥る。今後、不規則動詞の再確認、語彙力を高めるための動詞の意味を復習するなどが挙げられる。

4.2 経験

経験用法に関しては、もっとも誤答が多かった2つの間を検証する。間22は、I have never seen such a beautiful sight. であり、正答数は33であった。模範解答は、「これまでにこんな美しい眺めを見たことがない」である。正答率に換算すると44.6%で、半数以上の学生が用法を理解していないと考えられる。無回答の学生が最も多く、「sight」の意味が理解できていなかったのであろう。多くの正回答にも「このような美しいサイトを見たことがない」のように、カタカナのまま記入していた例もあった。また、「シート」とした解答もあった。また、「see」の過去分詞である「seen」も理解が困難であったのではないかと考えられる。これに関しては、文章中の単語1つではなく、2つ以上の意味がわからず、複合的に理解が困難であった可能性が高い。

2つめの間は、24. Have you ever been to Russia before? の疑問文である。正解答は、36で正答率は、48.6%であった。この文章の日本語文は、「あなたは過去にロシアに行ったことがあります

すか」である。この間に関しても、2つ以上の単語（Russia と before）の理解が困難であったと考えられる。このような複合的な問題の背景には、語彙力も関係している。「Russia」は、ロシアとするのが一般的だが、多くの学生の解答に見受けられたものが、「ルッシア」や「ルーシア」であった。この後に、「行ったことがある」と続ける解答は、「Russia」が地名であることを理解しているが、「知っている」、「会ったことがある」などとした解答は、明らかに人名としてとらえていて、文章の「Have you ever been…」に関しても把握できていない。また、「以前のロシアに行ったことがある?」、「ロシアより前に…」などの解答もあり、文章最後の「before」にも困惑した学生が多かった。これに対して問6. Have you ever been to France? との違いは、国名と「before」の有無だけである。しかしながら、問6. の正解率は、82.4%その差は30%以上である。やはり、「Russia」の国名の認知度の差が大きくかかわっているのと同時に「before」との複合的な問題が生じたといえる。

4.3 完了・結果

完了・結果用法は、全体で正答率が最も低かった問題が2つ含まれる。もっとも正答率が低かった問題は、19. I have come to school without my book. である。3用法で最も正解数が低かった問題で、正解率は、33.8%であった。模範的な訳としては、「私が本を持たずに学校に来た（来てしまった）」である。この問題の特徴の1つは、無解答の学生が多数存在したということである。その中でも、「わたしは」と書き始めた後記入をやめ、その後次の問題に移るといって、明らかに問題の内容が理解できていない学生が多かった。その次に多かった誤答は、「私は本を持たずに学校に行く」にほぼ近いものが多く、動詞は come なので「来た」である。「行く」であるには、現在形を取らなければならない。Come の過去分詞は、同じ come であり、この単語を行くと勘違いしたと同時に、現在形として理解してしまったと考えられる。また、「行く」ではなく、「行った」と理解した学生も多かった。これは、単純に come を「行った」とし、現在完了形の本質は、理解できていた学生も存在した可能性があるが、この調査方法では学生の理解の本質を把握するのは困難である。最後に「持ってきた」とした学生もまた、多かった。この例は単純に、without の意味が理解できていないようにも見受けられるがしかし、もしそうであれば、「私は本を持って学校に来た」とならなければならない。もし、「私は学校に本を持ってきた」という文章になるのであれば、I brought my book to school. となるべきであり、単純な過去形になる。このことから、動詞の理解力の低さが伺える。

問19. の次に誤答率が高かった問いは、2. My sister has already read the book. である。正解数は27で、正解率は36.5%にとどまった。一般的な訳として「私の姉（妹）はすでにその本を読んだ」であるが、この問いの動詞は、きわめて初歩的な「読む」という意味のものであるが、現在形・過去形・過去分詞と変化が無いという特徴があり、学生を混乱させたと考えられる。本来は、現在完了形の文章であるので、スペルは同じであっても、過去分詞である。もっとも間違いが多かった例として、「いつも本を読んでいる」である。動詞の read は、現在形で認識した学生が多かったと考えられるが、注目すべきは、read 直前の副詞である already を「いつも」と誤って理解してしまい、「読む」では、日本語的に違和感が生ずるので、「いつも読んでいる」と変化させたのではないかと考えられる。このことから、already と read（現在形）の複合的な間違いをしたのでは

ないかという結果にたどり着く。また、「すでに読んでいる」とした学生も多く、これに関しては、「すでに読み終わっている」という意味なのか、「すでに読み始めている」なのかを判断することは不可能である。完了・結果用法の誤答の特徴は、動詞の意味の理解不足のみならず、不規則な変化に惑わされたことである。また、動詞の変化と同時に、その動詞にかかる副詞の意味の複合的な間違いが多かった。

4.4 その他の誤答の特徴

上記にある誤答分析のほかに、直接現在完了とは関係がないと考えられる例を検証する。まずは、4.2 経験でもあったように、「Russia」を知らない学生が多かった。おそらくカタカナでの表記では、理解しているであろうが、英語表記になると「ルーシア」や「ルッシア」など、ローマ字読みをしている例が多い。また、「Russia」よりもより一般的に日本に浸透しているであろう、「Korea」を理解できていない学生が多数存在した。「コレア」などとやはり、ローマ字読みをしていた事例が多々存在した。韓国という国自体を知らない学生はほとんど存在しないだろうが、英語表記になった場合の認識度の低さは、やはり、英語で国名を習っていないのではないかと推測できる。

さらに問21. I have just returned from Korea. の「Korea」に付随する前置詞「from」を「韓国へ」と間違える学生が多かった。この問題に関しての日本語は、「私は今韓国から帰ってきたところだ」であるが、「私は今韓国へ戻ったところだ」は厳密には誤答である。しかし、現在完了の本質は理解していると判断し、正答とした。それは「have just returned」の現在完了の部分が理解できていると考えられ、「returned」は、文章の内容によって「帰る」または「戻る」と両方の意味にとれるからである。

最後に、継続用法の期間を表す、「for」、「since」を用いる前置詞句の誤解である。13. I have known Tom for 20 years. において、「for 20 years」を「20歳から」と誤解している学生が多かった。17. She has known him for five years. でも、「5年間」ではなく、「5歳」と間違えるケースが多数見受けられた。更には、3. I have visited Japan four times. を「4回」と訳さず、「4時間」・「4日間」としていた間違いも多かった。

5. まとめと今後の課題

全体的なまとめとして、伊関(2012)が指摘したとおり、継続用法は、その他の3つの「完了」・「結果」・「経験」の用法とは分離して考えなければと考えられる。他の3つの用法は、過去時制と言い換えが可能であり、継続用法だけは別に考えなければならないとしているため、継続用法以外の難易度が高いと考えられる。本研究の結果からもわかるように、継続用法の正答率が最も高かった。今後の課題としては、継続用法以外の用法を重点的に教えていく必要がある、とってしまうのはいささか安易な考えになってしまうことが懸念される。本研究の結果から継続用法の正答率が高かったとしても、現在完了形の本質を理解できていない学生も存在しているからである。本研究の結果から、現在完了形を学習する以前に、または同時に以下の5つの点を学習する必要がある。

・動詞の変化－多くの学習用参考書で使われているごく一般的な動詞の変化、特に不規則動詞の

学習

- ・ 語彙力－「Russia」・「Korea」などの英語での国名などの学習
- ・ 文章中に2つ以上の単語の意味、複合性－2つ以上の単語の意味が解らないとき、誤答を招く確率が極めて高くなる
- ・ 副詞句と動詞の関連性－副詞と動詞の意味の混乱を防ぐ
- ・ 前置詞（句）の正しい理解－歳、年数などの数字の理解を徹底する

現在完了形は学ぶ側だけではなく、教える側にも多々課題がある。現在の教授法、学校英語の教えかたにも様々な方法が取り入れられ実践されている。しかし、形式的に3つ、4つの用法に分けられた文章を淡々と学習・理解するだけでは、あまり現在完了形の本質を理解できているとはいえない。今後の課題として、さらなる現在完了形の研究が望まれる。

[参考文献（問題作成用含む）]

- 石黒昭博（2012）『総合英語 Forest（フォレスト）[6th edition]』。第6版 桐原書店
- 伊関敏之（2012）「現在完了形の用法に関する一考察－過去時制、現在完了進行形との比較を中心に－」、『人間科学研究』。8、25-42。
- 江川泰一郎（2014）『英文法の基礎』。初版発行 研究者
- 佐藤哲三・愛甲ゆかり（2005）『English Primer 大学生の英語入門』。5刷 南雲堂
- 小寺茂明（1977）「現在完了形についての一考察－その本質的意味と効果的な指導法－」、『島根大学教育学部紀要（教育科学）』。11、61-72。
- 杉山忠一（1998）『英文法詳解』。学習研究社
- 東後幸生（2005）『イラストで英文法を理解する』。第7刷発行 ベレ出版
- 長谷川潔・千種基弘（1990）『フォーカス 力のつく 英文法』。第11刷 啓林館
- 松沼光泰（2007）「学習内容の体制化と図作成方略が現在完了形の学習に及ぼす効果」『教育心理学研究』。55、414-425。
- 山口俊治（1996）『NEW 山口英文法の実況中継（上）』。改訂新版 語学春秋社
- 吉田正俊（1982）『理解しやすい新英文法』。文英堂

[参考資料]

以下の文章を日本語にしなさい。

1. Bill has been in Hawaii since last year.
2. My sister has already read the book.
3. I have visited Japan four times.
4. I haven't seen her since Tuesday.
5. Have you done your homework yet? No, not yet.
6. Have you ever been to France?
7. How long have you known her?
8. My sister has gone shopping.
9. She has never climbed Mt. Fuji.
10. We have lived in this house since 1987.
11. I have visited Paris twice.

12. I have already spent all my money.
13. I have known Tom for 20 years.
14. Steve has just finished his homework.
15. I have lost my cell phone.
16. I have seen that boy before.
17. She has known him for five years.
18. He has been sick since last week.
19. I have come to school without my book.
20. Have you ever heard of "ABC market"?
21. I have just returned from Korea.
22. I have never seen such a beautiful sight.
23. We have known each other for 15 years.
24. Have you ever been to Russia before?